

02-SHI

海老澤文庫

新約聖書哥林多前書
全

耶穌降生二千八百七十八年翻譯委員社中

新約 聖書 哥林多前書

明治十一年

日本橫濱上梓

海老澤有道文庫

使徒パウロコリント人におくれる前書
第一章 神その旨によりて耶穌キリストの使徒となす

たゆむるパウロおよび兄弟ソステネニ
ある神にけうくわいをもあはちキリスト耶穌はあやうきまよ
められめされし聖徒となれるをのおよびうれらのところ
にもつれらのところも諸處にあはれられらの主の
キリストの名にふりのまよぐおくる
なんぢらねがは
くはわがらの父ある神および主の
と平康なけよ
りて
神のめぐみよついでに
恆に

新約全書 哥林多前書第一章 自一至十節

よわがわみよ感謝^五 そのなんぢらにありて諸事に
あつちまてての教訓とまてての知識よとむごど我えとれ
ばあり^六 これキリストの證^七なんぢらのうちよわがわみよ
まてよとある^七 あくぢなんぢらにたまはるまてとるは恩賜
いこころとなくとれらの主のよはキリストのあらわれん
こと我まてて^八 神のたまはるまてなんぢら我堅^九とれらの
主のよはキリストの日よおのぢなんぢらよ責^十なすらむ
^九 それわみを誠信^十なるも。あれなんぢらに召^{十一}くその子とれらの主
のよはキリストの交際^{十二}よいらあめとる^{十三}。○ ^{十四} まやらむ
いよわれらの主のよはキリストの名よよりとるれなんぢ

らよまてむ。なんぢらにみお言をおなとらむ且わのまてとま
く心^{十五}我おなとらむ意^{十六}我おなとらむて聯合^{十七}とらむ。そのわ
がまやうとらむよクロエの家人^{十八}なんぢらのこと我とれよつげ
くなんぢらのうちよあらをひありとらむこればあ^{十九}ん^{二十}お
んぢらおめくこれハパウロとれまアポロとれまケパわれ
まキリストよ属^{二十一}はとらふ。これとれをらふとらむ^{二十二}キリスト
まあまてよわらむものあらんやパウロまなんぢらのことあ
は十字架^{二十三}よつけられしや。まてなんぢらにバプテスマ^{二十四}我う
けくパウロの名よいア^{二十五}もや^{二十六}これわみよ謝^{二十七}をこれハキリス
トとガヨスのわらむなんぢらのうちひとまもバプテスマ

をわがとあせしることなる^{十五}こゝわが名^ナよりきバプテスマ
をわがと人^{ひと}よひわれんこと我おそれたきむあり^{十六} され
まことステパタ^{リウのま}家族^{リウのま}はバプテスマ我わごとせむ。このほ
まへわれ人^{ひと}まバプテスマ我わごとせしことあるや否^{いな}我^{わが}
らん^{十七} キリストのされをつのひせしはバプテスマ我わごと
させん^{十八} らめはあらは福音^{ふくいん}我のべつさへしめん^{十九} らめなり
まことわれまこと^{二十} はの智慧^{ちゐ}我もちわしめ^{二十一} らめなり。こそキリ
ストの十字架^{トクト}のむなしくならざらん^{二十二} らめなり^{二十三} それ十字
架^{くわ}の^{二十四} へい^{二十五} わらぶらものまを愚^ぐなるもの。これらまこと
まこと^{二十六} らめ^{二十七} のま^{二十八} へ^{二十九} 神^{かみ}の能^{ちから}たるなり^{三十} まこと^{三十一} のち^{三十二} 録^{ろく}て^{三十三} られ^{三十四} ち^{三十五} へ^{三十六} や

の智^ち我^{わが}ほら^{ほら}が^がー^{三十七} さ^{三十八} と^{三十九} き^{四十} も^{四十一} の^{四十二} 智^ち我^{わが}む^むな^なー^{四十三} ぜん^{四十四} と^{四十五} あ^{四十六} る^{四十七} が
ら^{四十八} ー^{四十九} 智^ち者^{しや}ら^{五十} づ^{五十一} く^{五十二} ー^{五十三} あ^{五十四} る^{五十五} 學^{がく}者^{しや}ら^{五十六} づ^{五十七} く^{五十八} ー^{五十九} あ^{六十} る^{六十一} 此^この^よ世^よの^論
者^{しや}い^いづ^づく^く ー^{六十二} あ^{六十三} る^{六十四} 神^{かみ}の^この^よの^智慧^ち我^{わが}ー^{六十五} ー^{六十六} あ^{六十七} る^{六十八} の^あら^らー^{六十九} む
ら^{七十} ー^{七十一} あ^{七十二} ら^{七十三} ら^{七十四} ぬ^{七十五} や^{七十六} 世^よ人^{ひと}の^おの^れの^ち急^{いそ}我^{わが}の^みま^ま 神^{かみ}を^表
ら^{七十七} ぬ。こそ^{七十八} わ^{七十九} む^{八十} の^智慧^ち ー^{八十一} う^{八十二} な^{八十三} へ^{八十四} る^{八十五} なる^{八十六} こと^{八十七} の^ゆ急^{いそ} ー^{八十八} こ^{八十九} の^みの^傳
道^{だう}の^おろ^ろ ー^{九十} あ^{九十一} る^{九十二} 我^{わが}も^て 信^{しん} ぬ^る も^の 我^{わが}ま^ま へ^へ 我^{わが}よ^う ー^{九十三} と^{九十四} せ^{九十五} り
三 ユ^ユダ^ダヤ^ヤび^びと^との^休徴^{しう} 我^{わが}こ^のひ^のギ^ギリ^リシ^シヤ^ヤび^びと^との^智慧^ち ー^{九十六} ー^{九十七} む^{九十八} 三
これら^{九十九} の^十字^じ架^か ー^{一〇〇} つ^{一〇一} け^{一〇二} ら^{一〇三} れ^{一〇四} ー^{一〇五} キ^キリ^リス^スト^ト 我^{わが}の^べつ^つ ー^{一〇六} 即^{すなは}ち
ね^{一〇七} の^ユダ^ダヤ^ヤび^びと^との^いつ^つ ま^ま づ^づ く^く も^の キ^キリ^リシ^シヤ^ヤび^びと^との^いお^おろ
う^{一〇八} なる^{一〇九} もの^{十一〇} たり^{十一一} 二 され^{十一二} と^{十一三} 召^めれ^る なる^{十一四} もの^{十一五} の^ユダ^ダヤ^ヤび^びと^との

新約全書 哥林多前書第一章 自二十五至三十節三

もギリシヤびとももキリストのうみの大能まゝ神のちよ
なり五それ神のおろうんひとよりも智かみのよわき人
よりもつよ六兄弟よめー茂うらむれるあんぢらをみよ
肉よよれるちよあるものおろうらば能者おほうらば貴者
おろうらざるなり七かみの智者をさづうーめんとして世の
おろうなるもの残えらび強者をさづうーめんとして世のよ
わきもの残えらぶ八まゝ神あるものをわらわきんとて
よの賤者九ろーめらるものまありら無多ごとまよの残え
らび十あれまべての人かみのまゝは誇ことなる
らん十一なんぢらの神ははうりてキリスト 耶穌よあ

がいの正人の神はうてられてなんぢらの智慧まゝ義まゝ聖
まゝあがなひとなり十二あうーわらるものま主
よようてわらるべしとあるがごとし

第二章

きやうごいよ我まきよあんぢらよらるまゝときも

ことごと智慧のまぐまゝなるをもてなんぢらよ神のあつ
残つてへざう二そのこれ耶穌キリストとこれの十字架
よつけられしことの外のなんぢらのうちよあまゝなまゝ残
もしるまゝと意残まゝめとまゝなり三これあんぢらとと
もよまゝと弱うの懼まゝとあまゝをたけ四わが
いひしところまゝとわが宜しところの人のちよの婉言残も

ちかひなく靈と能のあつて我もちかひなく 五 そのいなるちらの
の信仰^{しんじゆ}はしてひとのちかひなくよらば神のちうらよらば一め
んとおすへむあり 六 ちうれどもわれら全ものけうちよ智^ち
慧をかくる。これこの世のちかひなくよらばまことのよの有司^{つうし}
まことらんといふものけうちよあらば 七 わきらのわくつと
ころまことくまこと神の奥義のちかひなく。この創世のさき^{すうせい}
より神のあらうとめわきらなくして榮をえせしめんがため
よさごめさまひしものなり 八 この世のつとさよこれ我志^し
るものし人もなり。もしあらばさうえの主我志ふとらよつ
けさるしあらん 九 ちうらば神のおのれ我愛ひくもの比さ

めよそなくしうひしものへ目しきまみは耳のきききくは
人のこいちりまごおもささるものなきとあるがごとし 十
ぎれと神へのその靈をもちまはされらよはあらばを靈の
まむてのこちかひなくねあま。まの神のあつときこちかひなく
移しなうしそれ人のこといそのうちよある靈のちうらよ
されくちかひなくあらんや。わくのちうら神のこといよみの靈
のちうらよあるものなり 十二 われらのうけしんこのよの靈よ
あらば神よりわくつと靈なり。これあみのまはらよしうひし
ところのもの我あまなきまめなり 十三 ちうらわれらこの事我
ちうらよ一人のちかひなくあまところの言我もちあは聖靈

のせしめあるところのこゝとをせむもあめなるなり。是なるを靈の
ことば我もくみらぬのこゝとあるなるなり。十四 うまれつきの
あつあるひと神のみらぬのこゝと我うけけ。これわれよハ
愚あるものもみゆればなり。まゝこれ我あることあるなり。ハ
その靈のこゝといみらぬよよりておきまふあべきものあるが
ゆゑなり。十五 されど靈よつけるものなきてのこゝと我のこゝ
まゝある而しておのれハ入よおきまふあることあり
十六 誰う考ゆれらる我ハまゝ主然やうあるものあらんや。さ
れどわれらハキリストのこゝと我もてま

第三章 兄弟よりわれなきよなんおらようとせむるときよらぬ

1 屬るものよわらるがごとくゆるあつるをすたふ肉よつけ
るもの。此ごとくまゝキリストよらる赤子ようらるごとく
せむ。二 これなんぢらハ乳飲のまゝめてあつきもの我ある
へざりき。なんぢら食ことあつたざればなり。今もあはあ
つた。三 そのなんぢらや肉よつけるものなれをなり。なん
ぢらのうちハ嫉妒と分争あり。こもなんぢらにくよつきま
人のごとくおこあふよあらばや。四 これハパウロよつき我ハ
アポロよつくとりふもの。此あるハこれなんぢら肉よつけ
るならばや。五 パウロよこれアポロを誰われらハたおの
よらぬよせむものよあつたひなんぢら我ハ信ぜりめん

とてつとむるものなるのちのたう六 さきまばりれいう悉ア
ボロも灌みをうつるものい七 神なり七 うゝるものみづそ
、ぐものちあぞあるよさらばと八 たふときハそごつると
ろろの神ウミなり八 それ種者うごもものもみづそ、ぐものもこゝろあるこ
とありあのおく工いはあごがひてその賞い成いうべ九 日れらら
神ウミとちよちさらくものありなんぢらへ神ウミのちとけあみ
の室ウミあり十 神ウミの日れよこまひーゆぐみよあごがひくこれ
かしとき江ウミ師ウミのぶとくまぞよ基礎い成いをあくる。いまやこの
人ウミそのゆうへは建いいあよそのうへよとらべきのかのウミ慎ウミ々
あべウミーウミ さい置いといひーいーいのちのよされも基礎い成い

あつることあごはざればなう。このいーは多ハをさすち耶い
蘇ウミキリストウミなり十三 もーひとこのいーは悉のうへよ金銀寶ウミ
石木艸禾稿ウミをもてとそなバ十三 おのくのわざいあきららう茶
らん。この日ウミあれ城ウミあらんはべければなり。これハ火ウミよてあ
らいねん。その火ウミあおくのわき如い何い残いくるるむべ十四 ーウミも
しそのとつるところの工ウミたもさむむくい残いえ十五 ーウミもーその
ろざやうをなを損ウミをうくされとおのれハ火ウミよりのづれい
づるごごとくつひまのむくハきん十六 ちんぢらハ神ウミのみやよ
しそかその靈ウミなんぢらハのらちよいまんこと残いーらざらるる
十七 ーウミもー人ウミかみのみや城ウミあがくそハ神ウミかれをあほらん。そのか

この殿ミヤへきよきものあれむなりまじ即ちあんぢらあり十八たれ
もみづくらあぢむくなくれ。もしなんぢらのうちよこの世よ
はおのち智慧ちゑあうとおもふものあらば智者ちゑとあらんとあへ
おろよあるべし十九。そのこのよのち急いそき神かみのまへよいお
ろうたればなり。あうしていぢく神かみをちりやぢそのみづら
らの詭計たぐひよよりてとらふ二十。まゝいぢく主しゆへちりやのおも
ひぢむたうききものときをさうあふ二十一。さればされもひとよや
ころたうれ萬物ばんぶつをなんぢらのものなり二十二。あうひハパウロ
あうひハポロあうひハケバあうひハ世界せかいあうひハ生せいお
ろひハ死しあうひハいのまのものあうひハのちのもの二十三。是こゝみかた

んぢらのもはなり二十三。なんぢらハキリストキリストはものキリスト
ハ神かみはものなり

第四章

人ひとよろしくハされらハ我われキリストキリストの役者つとねのごとく神かみの

おくぎぢつうさごらる家宰いえざいのごとくおもあべニ。まゝこの世よ

よありまゝいつのさよハ求もとむところハその忠信ちゆうしんならんこと

あり三。されなんぢらよハまのられあうひハ人ひとよハまのらるハ

ことハをハ充みちひさききことハなハはハられもみづくらハ我われ評ひやうは四

れみづくら省しやうよあやまハあるハおぼえハはハあハれどもこれ

よよりて義ぎとせられハ。されをハまハるものハを主しゆあり五。され

バ主しゆのハまハらんとハまハまハで時ときのハまハざりハらハざるうちの審判しんぱん

ゆるなわれ主しゆのくらきよあるこのくきつることをてらし心
のちりりごとをあらひさん。そのときおのく神かみよりおきれ
たうべし。兄弟あにがとよきあんなぢらためよとれらのこ
とをわきとアポロよなぞらん。この此こゝのそれらのことよよ
りあんなぢらして録とくされしところよはききてひと我思議わがしぎべ
のらきること我まなぶせ。われよまことづけんとしてこそよさ
からひおめく誇ほこることなつらしめん。このめあり。七 あんなぢら
しひと異いあらしむるもはまされをなんぢをあたにのそら
はぎらるもの我もつ。このもしこそ我もらつ。あなたを受領うけりょうぎら
るるるるるや。八 なんぢらまては飽あきあんなぢらばよとあ

て。あんなぢらわきとせもあらばしき王わうなり。これ實じつよなんぢ
がわらうらんこと我願わがねそのいられもなんぢらとともよ王わう
らんがごめあり。九 それおのふは神かみのそれら使徒しと我死わがしよさ
ごめらきしものおごとく赤あかのものとりてあらまし。このへ
ま。そのころらんの宇宙うちうのものをあはち天てんのつうひおよびひ
とぐし観玩くわんわんよせられられをたり。十 それらのキリストはこ
めよあちああるものとなを爾儕なんざいのキリストにありきさ
るときものよあれ。それらうのよわくあんなぢらの強つよあんなぢら
いたふとくこれらの賤いやし士しりまはるときよらるるをそれら
の飢うままし渴かわまし裸はだかまし。これ斯ごとてささまされるまをみよあ

十二 ちねをさくく手づうら工我なう罵らうときい祝いせめ
 らううときい忍^{一〇}そーらううときい勸^{一〇}をせり。されらい
 まよいけるまご世乃あくまごよろづれもの塵垢^{一〇}此こ
 と^{十四}我あんぢら我ちづうーめんうめよこれ我書^{一〇}よあら
 びうへつうわが愛^{一〇}はる子どものごうくなんぢら我^{一〇}做んと
 うあり^{十五}なんぢらキリストよありううとひ師^{一〇}を一萬あま
 うもちういあやうあることあし。そのこれキリストい^{一〇}は
 よありて福音^{一〇}をもちあんぢら我^{一〇}生をあり^{十六}このゆえよこ
 れあんぢら^{一〇}のこれよ効ん^{一〇}こと我^{一〇}まむるなる^{十七}これよよ
 り^{一〇}うが愛^{一〇}子あゆよありうく忠^{一〇}なる^{一〇}テモテ我^{一〇}われあんぢら

よつういせり彼^{一〇}のヨケキリストよありてちうあるところろ
 をあつちあまねく教會^{一〇}ごとよちうある模範^{一〇}我あんぢら
 よおがえさくべ^{一〇}あんぢらのうちされ我あんぢらよい
 うらびと^{一〇}うみづうらほらるりのあま^{十九}されど主^{一〇}のう
 ろよかたあま^{一〇}我^{一〇}まみやうよあんぢらよい^{一〇}う^{一〇}るもの
 此^{一〇}の言^{一〇}よあらびそれ能^{一〇}我あらん^{二十}その神國^{一〇}を^{一〇}と
 むよあるよあらびちうらよあれを^{二十一}あんぢらなよ我
 ち^{一〇}う^{一〇}あや^{一〇}答^{一〇}や^{一〇}も^{一〇}この^{一〇}の^{一〇}あ^{一〇}ん^{一〇}ぢ^{一〇}ら^{一〇}よ^{一〇}い^{一〇}ける^{一〇}こと^{一〇}我^{一〇}我^{一〇}が^{一〇}あ^{一〇}の
 ち^{一〇}う^{一〇}愛^{一〇}と^{一〇}柔^{一〇}和^{一〇}の^{一〇}う^{一〇}ろ^{一〇}我^{一〇}わ^{一〇}き^{一〇}い^{一〇}ける^{一〇}こと^{一〇}我^{一〇}我^{一〇}が^{一〇}あ^{一〇}の
 第五章 あんぢらのうちよ姦淫^{一〇}あやとつねよまごゆ。そのか

んいんいとうじんの異邦人のうちよもあらざるほどのことよて人ひとそ
のちの妻つま我もつときこゆ 二 あんぢらほころる斯かこと我
おこあひしも我のあんぢらのうちよりあまをけられんこ
と我後ごびくたげわざるの 三 われ身みをなんぢらのうちよ
をらんといくども靈れいをきり居ゐるごとくをよこれ
我おこあひしもの此罪つみをさぐる 四五 をなまわきらの
主しゅのよけキリストの名なよよりまなんぢらのあつまらん
ときわが靈れいもともよありくわきら此主しゅのよけキリ
ストのちうらよよりこのごとくもの我われリタナよわき
その肉くさ躰たい我ほろぼしその靈れい我し主しゅのよけの日はくひ

我えせしめんときさめたるあり 六 あんぢらのほころるよ
ろしうらびまきしものパンどねその全團かん我をあらはれ我
あらざる 七 なんぢらの麪めん酵こうあまがごとくきものあらばふ
るきパンどね我除のぞくあさらしきわごまりとあるべしこれ
われらの逾越こえをあらちキリストへまてよほふられし
つらささればわれらあるきパンどね我もちあはれまし悪あく
毒どくと暴狼ぼうろうのパンどね我もちあはれ眞實しんじつと至誠しじつあつたねなき
パン我もちあはれ節せつ我まゆるべし 〇 九 られあんぢらよ姦淫かんいん
をわこあふものともよまどちるあうれと既すでよときあはく
れ也 十 されどこの世よの淫いん我おこあふものまじの貪婪むさぼるもの

まことの勅索ちくさくものまことの偶像ぐわうをどつむものともまことなること成
まつこと禁きんずるものあらば。もしあらばならんがらこの世よ成
まなれざるべうらば^{十一}。もしあらばならん書かきおくす。いさや
うづいと坐まつものゆゑ淫りん成おこなひまことへむさぶり
まこといづらざる成拜やまつまこといづくをまことい沈しみ酒しゆまことい
むふこととせざるれともゆゑまことい^{十二}。外そともある
ともは食くひることとせざる。めんともあり^{十二}。外そともある
もの成さざる。ともいありをわれはあがらん。めんがら
審判しんぱんもろいうちのゆゑはあらば^{十三}。そともあるものい
神かみこれ成さざるか。あゝまことい人のこゝろをめんがらのうち

よりの黜ちゆうべい

第六章 ならんがらのうちとせむは事ことあるとき聖徒せいとのまへは

うらとあること成せむ敢あてた。うらざるもの此こゝまへは
言ことばふこと成ゆるものある。二 めんがらせいとこの世よ成さむ
うんとゆる成あらざるや世よゆゑめんがらよさむ。うら
たらばめんがら至いたる。ちひさきこと成さむ。うらざるゆ
のあらんや^三。めんがらわれらが天使てんしのつみ成さむ。うんとゆるを
あらざるや。況いはんや。此こゝよのこゝ成や^四。このゆゑはなんぢ
らも。この世よのこゝ成さむ。うんとせむ。教會けうかいのうちまこと
やしきもの成さむ。まことの座ざはまわらぬよ^五。これめんがら

我まづこのめんともくこのへを。あんならめうちよそのき
やうぶりのあひごめこと我まぢきさうる智者ひとまもあとの
らんや 六 ままど兄弟ときやうぶいあひらつとくうわこの
こと我不信者のまへ 七 ままあせり あんならごひは相訟
るまよりあんならめうちまことま過あり。なんなら何ぞこ
そよりもむしろ不義我うけざるや向ぞこれよりも寧あざ
むき我うけざるや 八 噫あんならあぎをあーあぎむきをあん
兄弟 九 ままこと我なせり あんならたごしうらざるも
の此神國我つぐこと我えざる我しらざるも。あんならみぢ
うら欺あられまべて淫我おとあひまごの偶像我をづみま

さへうんりん我なまごの男娼とありまごの男色我あこ
あひ 十 まごの盗竊まごを貪婪まごのさけまよひしづみま
ごの辱罵まごのうぢあものなごのみ家神のくも我つぐこ
と我えざるあり 十一 あんならのうち前まごのくのまごも
のありしごも主しごん結名まよりうらこれらの神のみ
ごのまよりて洗滌まごまきまよりまごの義とあるごを
り 十二 まべてのもの我まよごのうぢをさる。されどまべて益
あるまあらば。まべてのものこれまよりうらざるあり。されど
これその一城もごの主となさば 十三 食まごらのごめ腹まごよ
くのまごあま。されど神これもうれもほろほるべし身ま

淫レとおこたふあつめはあらび主レのうめあり主レさまと身レのう
めあり十四 神レをば主レがよみぐへらせうゆふ。まことの能レ力レ
をよてはをら然レもよみダへらんべ十五 あんぢらの身レのキ
リストの肢レあるをあらざるう。これキリストのえごがレ娼妓レ
のえごとあ一くよろらんや。あつらざるなり十六 あそびめ
は合レものいられとひとつのうらごとあつ然レらざるま。そ
はあつりのもの一レ躰レとなるべ一といひさゆひされをあり
十七 主レはあふもの一レ靈レとあるあり十八 かんぢら淫レがさけよ
人レのばておこたふつみま身レのそとよあり。されどりんを
行レものいおのふ身レをさうんあり十九 あんぢらの身レとあんぢ

ら二グ神レよりうけたるなんぢらの衷レはあるせいれいの殿レは
一レくあんぢら一いあんぢらのものはあらざること二然レらざる
う三 そいなんぢら一い價レをもくをささるるものなればあり
このゆゑは神レにものあるあんぢら身レ體レはおいでも靈レ魂レは
おいても神レのさのえがあらはれべ一

第七章 あんぢら一これよ二あきおく三ことよ四つら五い男レの
女レよあそざる六然レより七とん八 あつれども淫レ行レがまぬ九るる
うめは人レおめくその妻レがもちせんたのもおのくその夫レがも
つべ一 三 せつとまその分レがつかまよあんべ一妻レのまことつと
よあつれべ二 四 つまひみづりうその身レがつかまこと

我えん夫これをつのきさどる。かくのごとくをわつともみづう
らその身強つあさどるごとく我えんづまこを強主る 五 あひ
ともよこむむなうのれされどごのひよ意我あてせてあむら
く祈禱おこめよわのるよいよー後まことよ合べー。これ
サタナあんぢらの情のさへざるよ乗ドろあんぢら我いざ
あてざらんさめあり 六 されどごらくれ強りあ命びるよ
あらば許あり七 されへまべての人此わがごとくならんこ
と我強づふ。されどおのく神よりおのきのこまもの強うけ
ごう此もこれのごとく彼はうそのごとくーハこれらまご婚
姻せざるものおよび養婦よりまんもーわがごとくーと

らばおれらよよきなり 九 もーみづうら制ることあさりん
ばごんのんまもよすー。その婚姻はるいむねのもゆるよりも
まされまあり 十 くれこんりんせーものよめいん妻いんら
ともよわのるよなうのまのく命びるいこれよあらばまあさち
主なるも 十一 わつごうことあらむ嫁をさるのまこいんら
ともよはらぐごとく強にべー夫もまこつま強さるべうらば
十二 そのわのの人よわれこそをいふ主のりふよあらば。もー
まやうごの不信あるつまをめてるとき妻ともよをらんこ
と強強づらぐこれ強さるたうのれ 十三 まこんな不信あるを
つと強めてるとき夫ともよをらんことまねがわつこれ強

さるなるれ^{十四} せいふしんあまをつらいつまよよりききよ
くあり不信なるつまひをつとよよりく潔なればなり。まろ
らばあんぢらの子どもいさまようらば。されど今のきよき
ものなり^{十五} 不信者みづうらはなれさらばそのまあるくよ
まかせよ。うくのこときこあらば兄弟あるひと姉妹つ
あづかりところな^{十六} 神のまれら残め^{十七} せめてつら
や和睦せらしめん^{十八} せめてあり 妻よなんぢのきと残
はくふこと残う^{十九} や否残あらん夫よなんぢいこでつ身残
救こと残う^{二十} やらあやせしらん^{二十一} されど神のおめくよわ
うらあ^{二十二} するところま^{二十三} 主のおのく残召^{二十四} ところよ^{二十五} ころ

ひまのくのこころおこなふべ^{二十六}。これまべての教會よさ^{二十七}
め^{二十八} するも^{二十九} うくのこ^{三十} 割禮あり^{三十一} めきされ^{三十二} するもの^{三十三} の
つれい^{三十四} をま^{三十五} するなるれ^{三十六}。うらな^{三十七} なく^{三十八} してめ^{三十九} され^{四十} するもの
の^{四十一} かり^{四十二} れい^{四十三} 残^{四十四} う^{四十五} くる^{四十六} なるれ^{四十七}。う^{四十八} られ^{四十九} れ^{五十} 残^{五十一} う^{五十二} くる^{五十三} も^{五十四} な^{五十五} よ^{五十六} の^{五十七} 得^{五十八} こと^{五十九} なく^{六十} 割禮^{六十一} 残^{六十二} う^{六十三} け^{六十四} ぎ^{六十五} する^{六十六} も^{六十七} な^{六十八} よ^{六十九} の^{七十} 得^{七十一} こと^{七十二} なく^{七十三} 割禮^{七十四} 残^{七十五} う^{七十六} け^{七十七} ぎ^{七十八} する^{七十九} も^{八十} な^{八十一} よ^{八十二} の^{八十三} 得^{八十四} こと^{八十五} なく^{八十六} 割禮^{八十七} 残^{八十八} う^{八十九} け^{九十} ぎ^{九十一} する^{九十二} も^{九十三} な^{九十四} よ^{九十五} の^{九十六} 得^{九十七} こと^{九十八} なく^{九十九} 割禮^{一百} 残^{一百一} う^{一百二} け^{一百三} ぎ^{一百四} する^{一百五} も^{一百六} な^{一百七} よ^{一百八} の^{一百九} 得^{一百十} こと^{一百十一} なく^{一百十二} 割禮^{一百十三} 残^{一百十四} う^{一百十五} け^{一百十六} ぎ^{一百十七} する^{一百十八} も^{一百十九} な^{一百二十} よ^{一百二十一} の^{一百二十二} 得^{一百二十三} こと^{一百二十四} なく^{一百二十五} 割禮^{一百二十六} 残^{一百二十七} う^{一百二十八} け^{一百二十九} ぎ^{一百三十} する^{一百三十一} も^{一百三十二} な^{一百三十三} よ^{一百三十四} の^{一百三十五} 得^{一百三十六} こと^{一百三十七} なく^{一百三十八} 割禮^{一百三十九} 残^{一百四十} う^{一百四十一} け^{一百四十二} ぎ^{一百四十三} する^{一百四十四} も^{一百四十五} な^{一百四十六} よ^{一百四十七} の^{一百四十八} 得^{一百四十九} こと^{一百五十} なく^{一百五十一} 割禮^{一百五十二} 残^{一百五十三} う^{一百五十四} け^{一百五十五} ぎ^{一百五十六} する^{一百五十七} も^{一百五十八} な^{一百五十九} よ^{一百六十} の^{一百六十一} 得^{一百六十二} こと^{一百六十三} なく^{一百六十四} 割禮^{一百六十五} 残^{一百六十六} う^{一百六十七} け^{一百六十八} ぎ^{一百六十九} する^{一百七十} も^{一百七十一} な^{一百七十二} よ^{一百七十三} の^{一百七十四} 得^{一百七十五} こと^{一百七十六} なく^{一百七十七} 割禮^{一百七十八} 残^{一百七十九} う^{一百八十} け^{一百八十一} ぎ^{一百八十二} する^{一百八十三} も^{一百八十四} な^{一百八十五} よ^{一百八十六} の^{一百八十七} 得^{一百八十八} こと^{一百八十九} なく^{一百九十} 割禮^{一百九十一} 残^{一百九十二} う^{一百九十三} け^{一百九十四} ぎ^{一百九十五} する^{一百九十六} も^{一百九十七} な^{一百九十八} よ^{一百九十九} の^{二百} 得^{二百一} こと^{二百二} なく^{二百三} 割禮^{二百四} 残^{二百五} う^{二百六} け^{二百七} ぎ^{二百八} する^{二百九} も^{二百十} な^{二百十一} よ^{二百十二} の^{二百十三} 得^{二百十四} こと^{二百十五} なく^{二百十六} 割禮^{二百十七} 残^{二百十八} う^{二百十九} け^{二百二十} ぎ^{二百二十一} する^{二百二十二} も^{二百二十三} な^{二百二十四} よ^{二百二十五} の^{二百二十六} 得^{二百二十七} こと^{二百二十八} なく^{二百二十九} 割禮^{二百三十} 残^{二百三十一} う^{二百三十二} け^{二百三十三} ぎ^{二百三十四} する^{二百三十五} も^{二百三十六} な^{二百三十七} よ^{二百三十八} の^{二百三十九} 得^{二百四十} こと^{二百四十一} なく^{二百四十二} 割禮^{二百四十三} 残^{二百四十四} う^{二百四十五} け^{二百四十六} ぎ^{二百四十七} する^{二百四十八} も^{二百四十九} な^{二百五十} よ^{二百五十一} の^{二百五十二} 得^{二百五十三} こと^{二百五十四} なく^{二百五十五} 割禮^{二百五十六} 残^{二百五十七} う^{二百五十八} け^{二百五十九} ぎ^{二百六十} する^{二百六十一} も^{二百六十二} な^{二百六十三} よ^{二百六十四} の^{二百六十五} 得^{二百六十六} こと^{二百六十七} なく^{二百六十八} 割禮^{二百六十九} 残^{二百七十} う^{二百七十一} け^{二百七十二} ぎ^{二百七十三} する^{二百七十四} も^{二百七十五} な^{二百七十六} よ^{二百七十七} の^{二百七十八} 得^{二百七十九} こと^{二百八十} なく^{二百八十一} 割禮^{二百八十二} 残^{二百八十三} う^{二百八十四} け^{二百八十五} ぎ^{二百八十六} する^{二百八十七} も^{二百八十八} な^{二百八十九} よ^{二百九十} の^{二百九十一} 得^{二百九十二} こと^{二百九十三} なく^{二百九十四} 割禮^{二百九十五} 残^{二百九十六} う^{二百九十七} け^{二百九十八} ぎ^{二百九十九} する^{三百} も^{三百一} な^{三百二} よ^{三百三} の^{三百四} 得^{三百五} こと^{三百六} なく^{三百七} 割禮^{三百八} 残^{三百九} う^{三百十} け^{三百十一} ぎ^{三百十二} する^{三百十三} も^{三百十四} な^{三百十五} よ^{三百十六} の^{三百十七} 得^{三百十八} こと^{三百十九} なく^{三百二十} 割禮^{三百二十一} 残^{三百二十二} う^{三百二十三} け^{三百二十四} ぎ^{三百二十五} する^{三百二十六} も^{三百二十七} な^{三百二十八} よ^{三百二十九} の^{三百三十} 得^{三百三十一} こと^{三百三十二} なく^{三百三十三} 割禮^{三百三十四} 残^{三百三十五} う^{三百三十六} け^{三百三十七} ぎ^{三百三十八} する^{三百三十九} も^{三百四十} な^{三百四十一} よ^{三百四十二} の^{三百四十三} 得^{三百四十四} こと^{三百四十五} なく^{三百四十六} 割禮^{三百四十七} 残^{三百四十八} う^{三百四十九} け^{三百五十} ぎ^{三百五十一} する^{三百五十二} も^{三百五十三} な^{三百五十四} よ^{三百五十五} の^{三百五十六} 得^{三百五十七} こと^{三百五十八} なく^{三百五十九} 割禮^{三百六十} 残^{三百六十一} う^{三百六十二} け^{三百六十三} ぎ^{三百六十四} する^{三百六十五} も^{三百六十六} な^{三百六十七} よ^{三百六十八} の^{三百六十九} 得^{三百七十} こと^{三百七十一} なく^{三百七十二} 割禮^{三百七十三} 残^{三百七十四} う^{三百七十五} け^{三百七十六} ぎ^{三百七十七} する^{三百七十八} も^{三百七十九} な^{三百八十} よ^{三百八十一} の^{三百八十二} 得^{三百八十三} こと^{三百八十四} なく^{三百八十五} 割禮^{三百八十六} 残^{三百八十七} う^{三百八十八} け^{三百八十九} ぎ^{三百九十} する^{三百九十一} も^{三百九十二} な^{三百九十三} よ^{三百九十四} の^{三百九十五} 得^{三百九十六} こと^{三百九十七} なく^{三百九十八} 割禮^{三百九十九} 残^{四百} う^{四百一} け^{四百二} ぎ^{四百三} する^{四百四} も^{四百五} な^{四百六} よ^{四百七} の^{四百八} 得^{四百九} こと^{四百十} なく^{四百十一} 割禮^{四百十二} 残^{四百十三} う^{四百十四} け^{四百十五} ぎ^{四百十六} する^{四百十七} も^{四百十八} な^{四百十九} よ^{四百二十} の^{四百二十一} 得^{四百二十二} こと^{四百二十三} なく^{四百二十四} 割禮^{四百二十五} 残^{四百二十六} う^{四百二十七} け^{四百二十八} ぎ^{四百二十九} する^{四百三十} も^{四百三十一} な^{四百三十二} よ^{四百三十三} の^{四百三十四} 得^{四百三十五} こと^{四百三十六} なく^{四百三十七} 割禮^{四百三十八} 残^{四百三十九} う^{四百四十} け^{四百四十一} ぎ^{四百四十二} する^{四百四十三} も^{四百四十四} な^{四百四十五} よ^{四百四十六} の^{四百四十七} 得^{四百四十八} こと^{四百四十九} なく^{四百五十} 割禮^{四百五十一} 残^{四百五十二} う^{四百五十三} け^{四百五十四} ぎ^{四百五十五} する^{四百五十六} も^{四百五十七} な^{四百五十八} よ^{四百五十九} の^{四百六十} 得^{四百六十一} こと^{四百六十二} なく^{四百六十三} 割禮^{四百六十四} 残^{四百六十五} う^{四百六十六} け^{四百六十七} ぎ^{四百六十八} する^{四百六十九} も^{四百七十} な^{四百七十一} よ^{四百七十二} の^{四百七十三} 得^{四百七十四} こと^{四百七十五} なく^{四百七十六} 割禮^{四百七十七} 残^{四百七十八} う^{四百七十九} け^{四百八十} ぎ^{四百八十一} する^{四百八十二} も^{四百八十三} な^{四百八十四} よ^{四百八十五} の^{四百八十六} 得^{四百八十七} こと^{四百八十八} なく^{四百八十九} 割禮^{四百九十} 残^{四百九十一} う^{四百九十二} け^{四百九十三} ぎ^{四百九十四} する^{四百九十五} も^{四百九十六} な^{四百九十七} よ^{四百九十八} の^{四百九十九} 得^{五百} こと^{五百一} なく^{五百二} 割禮^{五百三} 残^{五百四} う^{五百五} け^{五百六} ぎ^{五百七} する^{五百八} も^{五百九} な^{五百十} よ^{五百十一} の^{五百十二} 得^{五百十三} こと^{五百十四} なく^{五百十五} 割禮^{五百十六} 残^{五百十七} う^{五百十八} け^{五百十九} ぎ^{五百二十} する^{五百二十一} も^{五百二十二} な^{五百二十三} よ^{五百二十四} の^{五百二十五} 得^{五百二十六} こと^{五百二十七} なく^{五百二十八} 割禮^{五百二十九} 残^{五百三十} う^{五百三十一} け^{五百三十二} ぎ^{五百三十三} する^{五百三十四} も^{五百三十五} な^{五百三十六} よ^{五百三十七} の^{五百三十八} 得^{五百三十九} こと^{五百四十} なく^{五百四十一} 割禮^{五百四十二} 残^{五百四十三} う^{五百四十四} け^{五百四十五} ぎ^{五百四十六} する^{五百四十七} も^{五百四十八} な^{五百四十九} よ^{五百五十} の^{五百五十一} 得^{五百五十二} こと^{五百五十三} なく^{五百五十四} 割禮^{五百五十五} 残^{五百五十六} う^{五百五十七} け^{五百五十八} ぎ^{五百五十九} する^{五百六十} も^{五百六十一} な^{五百六十二} よ^{五百六十三} の^{五百六十四} 得^{五百六十五} こと^{五百六十六} なく^{五百六十七} 割禮^{五百六十八} 残^{五百六十九} う^{五百七十} け^{五百七十一} ぎ^{五百七十二} する^{五百七十三} も^{五百七十四} な^{五百七十五} よ^{五百七十六} の^{五百七十七} 得^{五百七十八} こと^{五百七十九} なく^{五百八十} 割禮^{五百八十一} 残^{五百八十二} う^{五百八十三} け^{五百八十四} ぎ^{五百八十五} する^{五百八十六} も^{五百八十七} な^{五百八十八} よ^{五百八十九} の^{五百九十} 得^{五百九十一} こと^{五百九十二} なく^{五百九十三} 割禮^{五百九十四} 残^{五百九十五} う^{五百九十六} け^{五百九十七} ぎ^{五百九十八} する^{五百九十九} も^{六百} な^{六百一} よ^{六百二} の^{六百三} 得^{六百四} こと^{六百五} なく^{六百六} 割禮^{六百七} 残^{六百八} う^{六百九} け^{六百十} ぎ^{六百十一} する^{六百十二} も^{六百十三} な^{六百十四} よ^{六百十五} の^{六百十六} 得^{六百十七} こと^{六百十八} なく^{六百十九} 割禮^{六百二十} 残^{六百二十一} う^{六百二十二} け^{六百二十三} ぎ^{六百二十四} する^{六百二十五} も^{六百二十六} な^{六百二十七} よ^{六百二十八} の^{六百二十九} 得^{六百三十} こと^{六百三十一} なく^{六百三十二} 割禮^{六百三十三} 残^{六百三十四} う^{六百三十五} け^{六百三十六} ぎ^{六百三十七} する^{六百三十八} も^{六百三十九} な^{六百四十} よ^{六百四十一} の^{六百四十二} 得^{六百四十三} こと^{六百四十四} なく^{六百四十五} 割禮^{六百四十六} 残^{六百四十七} う^{六百四十八} け^{六百四十九} ぎ^{六百五十} する^{六百五十一} も^{六百五十二} な^{六百五十三} よ^{六百五十四} の^{六百五十五} 得^{六百五十六} こと^{六百五十七} なく^{六百五十八} 割禮^{六百五十九} 残^{六百六十} う^{六百六十一} け^{六百六十二} ぎ^{六百六十三} する^{六百六十四} も^{六百六十五} な^{六百六十六} よ^{六百六十七} の^{六百六十八} 得^{六百六十九} こと^{六百七十} なく^{六百七十一} 割禮^{六百七十二} 残^{六百七十三} う^{六百七十四} け^{六百七十五} ぎ^{六百七十六} する^{六百七十七} も^{六百七十八} な^{六百七十九} よ^{六百八十} の^{六百八十一} 得^{六百八十二} こと^{六百八十三} なく^{六百八十四} 割禮^{六百八十五} 残^{六百八十六} う^{六百八十七} け^{六百八十八} ぎ^{六百八十九} する^{六百九十} も^{六百九十一} な^{六百九十二} よ^{六百九十三} の^{六百九十四} 得^{六百九十五} こと^{六百九十六} なく^{六百九十七} 割禮^{六百九十八} 残^{六百九十九} う^{七百} け^{七百一} ぎ^{七百二} する^{七百三} も^{七百四} な^{七百五} よ^{七百六} の^{七百七} 得^{七百八} こと^{七百九} なく^{七百十} 割禮^{七百十一} 残^{七百十二} う^{七百十三} け^{七百十四} ぎ^{七百十五} する^{七百十六} も^{七百十七} な^{七百十八} よ^{七百十九} の^{七百二十} 得^{七百二十一} こと^{七百二十二} なく^{七百二十三} 割禮^{七百二十四} 残^{七百二十五} う^{七百二十六} け^{七百二十七} ぎ^{七百二十八} する^{七百二十九} も^{七百三十} な^{七百三十一} よ^{七百三十二} の^{七百三十三} 得^{七百三十四} こと^{七百三十五} なく^{七百三十六} 割禮^{七百三十七} 残^{七百三十八} う^{七百三十九} け^{七百四十} ぎ^{七百四十一} する^{七百四十二} も^{七百四十三} な^{七百四十四} よ^{七百四十五} の^{七百四十六} 得^{七百四十七} こと^{七百四十八} なく^{七百四十九} 割禮^{七百五十} 残^{七百五十一} う^{七百五十二} け^{七百五十三} ぎ^{七百五十四} する^{七百五十五} も^{七百五十六} な^{七百五十七} よ^{七百五十八} の^{七百五十九} 得^{七百六十} こと^{七百六十一} なく^{七百六十二} 割禮^{七百六十三} 残^{七百六十四} う^{七百六十五} け^{七百六十六} ぎ^{七百六十七} する^{七百六十八} も^{七百六十九} な^{七百七十} よ^{七百七十一} の^{七百七十二} 得^{七百七十三} こと^{七百七十四} なく^{七百七十五} 割禮^{七百七十六} 残^{七百七十七} う^{七百七十八} け^{七百七十九} ぎ^{七百八十} する^{七百八十一} も^{七百八十二} な^{七百八十三} よ^{七百八十四} の^{七百八十五} 得^{七百八十六} こと^{七百八十七} なく^{七百八十八} 割禮^{七百八十九} 残^{七百九十} う^{七百九十一} け^{七百九十二} ぎ^{七百九十三} する^{七百九十四} も^{七百九十五} な^{七百九十六} よ^{七百九十七} の^{七百九十八} 得^{七百九十九} こと^{八百} なく^{八百一} 割禮^{八百二} 残^{八百三} う^{八百四} け^{八百五} ぎ^{八百六} する^{八百七} も^{八百八} な^{八百九} よ^{八百十} の^{八百十一} 得^{八百十二} こと^{八百十三} なく^{八百十四} 割禮^{八百十五} 残^{八百十六} う^{八百十七} け^{八百十八} ぎ^{八百十九} する^{八百二十} も^{八百二十一} な^{八百二十二} よ^{八百二十三} の^{八百二十四} 得^{八百二十五} こと^{八百二十六} なく^{八百二十七} 割禮^{八百二十八} 残^{八百二十九} う^{八百三十} け^{八百三十一} ぎ^{八百三十二} する^{八百三十三} も^{八百三十四} な^{八百三十五} よ^{八百三十六} の^{八百三十七} 得^{八百三十八} こと^{八百三十九} なく^{八百四十} 割禮^{八百四十一} 残^{八百四十二} う^{八百四十三} け^{八百四十四} ぎ^{八百四十五} する^{八百四十六} も^{八百四十七} な^{八百四十八} よ^{八百四十九} の^{八百五十} 得^{八百五十一} こと^{八百五十二} なく^{八百五十三} 割禮^{八百五十四} 残^{八百五十五} う^{八百五十六} け^{八百五十七} ぎ^{八百五十八} する^{八百五十九} も^{八百六十} な^{八百六十一} よ^{八百六十二} の^{八百六十三} 得^{八百六十四} こと^{八百六十五} なく^{八百六十六} 割禮^{八百六十七} 残^{八百六十八} う^{八百六十九} け^{八百七十} ぎ^{八百七十一} する^{八百七十二} も^{八百七十三} な^{八百七十四} よ^{八百七十五} の^{八百七十六} 得^{八百七十七} こと^{八百七十八} なく^{八百七十九} 割禮^{八百八十} 残^{八百八十一} う^{八百八十二} け^{八百八十三} ぎ^{八百八十四} する^{八百八十五} も^{八百八十六} な^{八百八十七} よ^{八百八十八} の^{八百八十九} 得^{八百九十} こと^{八百九十一} なく^{八百九十二} 割禮^{八百九十三} 残^{八百九十四} う^{八百九十五} け^{八百九十六} ぎ^{八百九十七} する^{八百九十八} も^{八百九十九} な^{九百} よ^{九百一} の^{九百二} 得^{九百三} こと^{九百四} なく^{九百五} 割禮^{九百六} 残^{九百七} う^{九百八} け^{九百九} ぎ^{九百十} する^{九百十一} も^{九百十二} な^{九百十三} よ^{九百十四} の^{九百十五} 得^{九百十六} こと^{九百十七} なく^{九百十八} 割禮^{九百十九} 残^{九百二十} う^{九百二十一} け^{九百二十二} ぎ^{九百二十三} する^{九百二十四} も^{九百二十五} な^{九百二十六} よ^{九百二十七} の^{九百二十八} 得^{九百二十九} こと^{九百三十} なく^{九百三十一} 割禮^{九百三十二} 残^{九百三十三} う^{九百三十四} け^{九百三十五} ぎ^{九百三十六} する^{九百三十七} も^{九百三十八} な^{九百三十九} よ^{九百四十} の^{九百四十一} 得^{九百四十二} こと^{九百四十三} なく^{九百四十四} 割禮^{九百四十五} 残^{九百四十六} う^{九百四十七} け^{九百四十八} ぎ^{九百四十九} する^{九百五十} も^{九百五十一} な^{九百五十二} よ^{九百五十三} の^{九百五十四} 得^{九百五十五} こと^{九百五十六} なく^{九百五十七} 割禮^{九百五十八} 残^{九百五十九} う^{九百六十} け^{九百六十一} ぎ^{九百六十二} する^{九百六十三} も^{九百六十四} な^{九百六十五} よ^{九百六十六} の^{九百六十七} 得^{九百六十八} こと^{九百六十九} なく^{九百七十} 割禮^{九百七十一} 残^{九百七十二} う^{九百七十三} け^{九百七十四} ぎ^{九百七十五} する^{九百七十六} も^{九百七十七} な^{九百七十八} よ^{九百七十九} の^{九百八十} 得^{九百八十一} こと^{九百八十二} なく^{九百八十三} 割禮^{九百八十四} 残^{九百八十五} う^{九百八十六} け^{九百八十七} ぎ^{九百八十八} する^{九百八十九} も^{九百九十} な^{九百九十一} よ^{九百九十二} の^{九百九十三} 得^{九百九十四} こと^{九百九十五} なく^{九百九十六} 割禮^{九百九十七} 残^{九百九十八} う^{九百九十九} け^千 ぎ^{千一} する^{千二} も^{千三} な^{千四} よ^{千五} の^{千六} 得^{千七} こと^{千八} なく^{千九} 割禮^{千十} 残^{千十一} う^{千十二} け^{千十三} ぎ^{千十四} する^{千十五} も^{千十六} な^{千十七} よ^{千十八} の^{千十九} 得^{千二十} こと^{千二十一} なく^{千二十二} 割禮^{千二十三} 残^{千二十四} う^{千二十五} け^{千二十六} ぎ^{千二十七} する^{千二十八} も^{千二十九} な^{千三十} よ^{千三十一} の^{千三十二} 得^{千三十三} こと^{千三十四} なく^{千三十五} 割禮^{千三十六} 残^{千三十七} う^{千三十八} け^{千三十九} ぎ^{千四十} する^{千四十一} も^{千四十二} な^{千四十三} よ^{千四十四} の^{千四十五} 得^{千四十六} こと^{千四十七} なく^{千四十八} 割禮^{千四十九} 残^{千五十} う^{千五十一} け^{千五十二} ぎ^{千五十三} する^{千五十四} も^{千五十五} な^{千五十六} よ^{千五十七} の^{千五十八} 得^{千五十九} こと^{千六十} なく^{千六十一} 割禮^{千六十二} 残^{千六十三} う^{千六十四} け^{千六十五} ぎ^{千六十六} する^{千六十七} も^{千六十八} な^{千六十九} よ^{千七十} の^{千七十一} 得^{千七十二} こと^{千七十三} なく^{千七十四} 割禮^{千七十五} 残^{千七十六} う^{千七十七} け^{千七十八} ぎ^{千七十九} する^{千八十} も^{千八十一} な^{千八十二} よ^{千八十三} の^{千八十四} 得^{千八十五} こと^{千八十六} なく^{千八十七} 割禮^{千八十八} 残^{千八十九} う^{千九十} け^{千九十一} ぎ^{千九十二} する^{千九十三} も^{千九十四} な^{千九十五} よ^{千九十六} の^{千九十七} 得^{千九十八} こと^{千九十九} なく^{九百} 割禮^{九百一} 残^{九百二} う^{九百三} け^{九百四} ぎ^{九百五} する^{九百六} も^{九百七} な^{九百八} よ^{九百九} の^{九百十} 得^{九百十一} こと^{九百十二} なく^{九百十三} 割禮^{九百十四} 残^{九百十五} う^{九百十六} け^{九百十七} ぎ^{九百十八} する^{九百十九} も^{九百二十} な^{九百二十一} よ^{九百二十二} の^{九百二十三} 得^{九百二十四} こと^{九百二十五} なく^{九百二十六} 割禮^{九百二十七} 残^{九百二十八} う^{九百二十九} け^{九百三十} ぎ^{九百三十一} する^{九百三十二} も^{九百三十三} な^{九百三十四} よ^{九百三十五} の^{九百三十六} 得^{九百三十七} こと^{九百三十八} なく^{九百三十九} 割禮^{九百四十} 残^{九百四十一} う^{九百四十二} け^{九百四十三} ぎ^{九百四十四} する^{九百四十五} も^{九百四十六} な^{九百四十七} よ^{九百四十八} の^{九百四十九} 得^{九百五十} こと^{九百五十一} なく^{九百五十二} 割禮^{九百五十三} 残^{九百五十四} う^{九百五十五} け^{九百五十六} ぎ^{九百五十七} する^{九百五十八} も^{九百五十九} な^{九百六十} よ^{九百六十一} の^{九百六十二} 得^{九百六十三} こと^{九百六十四} なく^{九百六十五} 割禮^{九百六十六} 残^{九百六十七} う^{九百六十八} け^{九百六十九} ぎ^{九百七十} する^{九百七十一} も^{九百七十二} な^{九百七十三} よ^{九百七十四} の^{九百七十五} 得^{九百七十六} こと^{九百七十七} なく^{九百七十八}

めされー自主トクのものさキリストのどれいなう二三あんぢら
へあさひやもて買ウまうるものあり人ひとの奴隷どくとあるあうれ
二四兄弟きょうだいよおのくめされーときよあさひとところの分ぶんよとど
まうる神かみとともよなるべー二五處女ぢよのことよつりていわ
れりまご主しゆのめり残のこうけび。されどそれ主まのあされみ残のこ
うむる忠義ちんぎなるものとなすこればごがあひひ残のこ述のこべー
二六いまの災わざいよよりまこれ婚姻こんいんせざるをよーとん。おくのこ
とくある人ひとよよー二七あんぢ妻つめよつなうるものなる。ま
うらべらくこと残のこもとむるあうれ。なんぢつまの繫つなぎたるまも
のなる。まうらべつまをもとむるあうれ二八爾なんよーめたる

ともつみ残のこ犯とがよあらん。まもよありまはるとも罪つみを
まうるよあらん。されどおくのこときまのいその身みあまよ
あさん。われあんぢら残のこーまわづらひーむるよ若わかのびん二九
兄弟きょうだいよあまこれいさん今いまよりのちれときいあまそれ
その妻つめ残のこもてるものいもよざるがごとく三〇哭なもれいなり
ざるがごとく三一喜よろこもれいよろこむざるかふとく買うもれなるも
たざるがごとく三二この世よ残のこもあかるものい用もちざるがごと
くまぶきごめなり。それこのよの形状かたちいまきゆくあり三三己
れあんぢらがあまひごづらまざるんこと残のこねがふ婚姻こんいんせ
ざるものいりつよー主しゆ残のこよろこむせんと主しゆのここと残のこお

もひつづらひ ^{三三} こんりんせしものいりのよしと妻 ^つ 汝よろ
こぢせんと世 ^よ のこと残おひひつづらふあり ^{三四} つまとなれ
るものと處女 ^{やうむ} たるもの此わのちあり。よめらしませざるゆは
身 ^み も靈 ^{たま} もきようらんよめ志ゆのこととおもひわづらひ嫁 ^{よめ}
せしものいりのよしと汝よろこぢせんと世 ^よ のこと残お
もひわづらふあり ^{三五} 我 ^{われ} られをいふあんぢら残益 ^{えき} せんよ
めをう。なんぢらよ絆 ^は 汝おんといはるよあらんよなんぢ
ら汝 ^{みづか} ーと理 ^{ことわり} よあおせさるづうひなく後 ^{あと} んとらよ主 ^{しゅ} よ
つうへしめんともなる ^{三六} 人 ^{ひと} もーそのむはめよ對 ^{たい} ーとおの
おこなることとわづらふわなすはとおのふとき ^{むかし} 女 ^{むすめ} とき

まぎあつやむこと残えざることあらばそのくろよまら
んべし。この罪 ^{つみ} 汝 ^{みづか} をうんよあらんれらよこんりんせさ
んべし ^{三七} されど人 ^{ひと} もーそのくろ残かてー ^{せむ} 己 ^{おのれ} 残えざるこ
ともなくまことおれが意 ^{こころ} のまよあらんこと残えそそのむは
め残とめおんところろのらちよさざめあが考 ^{かんが} うん
へよまことなる ^{三八} いくのぶくなれば嫁 ^{よめ} せきんるりの
おこあひまよし。されどよめりりせさせざるものおとを
ひいさらよし ^{三九} 夫 ^{おとこ} いけるうちいつまおきてよつなごる
るなり。されどやうとり死 ^し をくろのまよめりる
ること残ゆるさる。たが主 ^{しゅ} よあるものよのみゆくべし ^{四十} さ

れどそれおもふよむんたそのまゝとらまをたぶらとよさ
いとひやう。われまゝと神のみまゝゆゑは感^んとくりとおもふ

第八章 偶像カウダウよきくげしものよつらゝいられらみち知識^{ちしき}あ

ること成しむ。ちしき人成りくらしむ。されどあいの徳を
うつるものなり。二 もみづくらよくもの成知とおもふも
のいひまごそのしるべきやどともあらざるものあり。三 人
もかみを愛せむこれ神よあられたるなり。四 くらぎらよさ
さげしもの成食はるよつらゝいられらぐらぎらうの世よな
きものあらむしる。まごしとまの神のほのよむみちまを
五 神ととなあるものあるひは天よありあるひは地よあ

りておやくの神おやくの主あるがごとしとらとらも六
ねらよおらゝいひとら神をち父あるのみ。よろ
づのものこれより生われらこれに歸は。まごしとまのまゆ
まをち耶穌キリストあて萬物こまよらわれらもこれ
よよれま七 されどみおらゝること成あらん今よいひまを
あはらるるは偶像哉。あまごこれ成ららざらうまごしげし
ものとおもひて食はるものあり。このゆゑよその心よわく
しけのさるなり。八 神とこれらのおらゝいまを食物よよ
るよあらん。あらくはるもまさるることなくまよくせざるもお
らることあり。九 されどあんぢらつしみるその自由哉。よろき

ひくそのちう、残れまざるものあらんや、ハ、これ人のことよ
のこりてくれ残れんや。おきてもまゝこのくひふよあら
むや、^九モーセのおきてよ穀物残れなげうよ口籠残れくべ
うらげとしるされう神うのたぬは慮たまんるう、^十ま
らわれらのとぬよのこられ残れひとぬひこのこわき
らのとぬよ録とぬつるあり。その耕もの望ありう、うら
し、こくもつ残得れのをぞみありう
こなるらうづなれをなす、^{十一}これらも、あんのとぬよ靈
のものを残まゝこらばあんならの肉のものを残うとるハ大
事あらんや、^{十二}やの人もこの權威をあんならのうへよ

もこばまゝくられらや。されどこれらこのけんをもち
ぬぐキリストの福音よさまうげあきやうよわれらにべて
のこくを志ぬぶ、^{十三}あんなら、この聖事残つとむるも
のこみや残もの残あうく、祭壇よつのあるものいさらご
んとともよその領残とることを、^{十四}このごこく主ありん
残れべつとあるものを福音よよりとむとさん、こく残さご
めとぬへ、^{十五}されど我これらのこころハ、一やもりちぬだ。ま
とわくのこころ、せらまん、とぬよこれ残かきおくるよあら
ぬ。そを我わらうところ残人よむあ、せられんよ、む志
る死るいわれよよきことなればあり、^{十六}われありんを結

べつとあるとりへども誇たかびきとところなり。已お減へえざるあり
も。われ福音くわんはたべつとへむの實じつはわざとひなり。十七
われこのみとこれ減へなきが賞むかひ減へえん。も。我われのまぶるも
その責任つとはわれはあづかれ。十六
あるや我われあくりん減へたべつとあるは人ひと減へつひえな
くキリストのあくりん減へせしゆまる福音くわんはあまそわが
もてる權けん減へみづうもちかざる即すなはちこれあり。十九
ての人ひとはむのひと自主じしゆのりはあれとさらはあやくのひと
減へえんとめよみづうらかれ減へたべてのひとの奴と隷れいとな
せり。二十 ユダヤびとよわれユダヤ人いのごとくなれ。これ

ユダヤびと減へえんごめなり。ま。律法あがひのきくはあるものよ
我われおきては。一。はあらざれどもおきてのきくはあるも
の。ごとくなれ。それ律法あがひの。一。はあるものやえんごめ
あり。ニ。おきてなきものよ。我われおきてなきもの。ごとくな
れ。これおきてなきものを得えんごめなり。されどわれ神かみは
むらひきおきてなきものはあらざ。ま。おとちキリストのおきての
きくはあるなり。三。柔弱よわものよ。われよわきものれごとく
なれ。これよわきものやえんごめあり。ま。ごまぶての人ひとは
はられそのはぶてのひとを狀かたちはきくごらう。それらのよも
一。これら數人せうじん減へまぐとんごめなり。三。わき福音くわんはごめは

この行く行をひとごとくともみあぐりんよあがくらんよめなを^{二四}
あんぢらあらんや馳場^{ちせむ}よごるもののみなちれども褒^ほ
美^び城^{じやう}うるものいごと一人^{ひとり}ある城^{じやう}あんぢらも得^えんよめよと
しるべ^{二五}まぐて勝^{かつ}城^{じやう}あらそふものいあよごと城^{じやう}ゆひこ
へ謹^{つしむ}なり。これらいやおれやけき冕^{かん}城^{じやう}えんがよめよこれ城^{じやう}
おこあひ我^{われ}儕^ちいやおれざるかんむり城^{じやう}えんがよめよこれ
城^{じやう}行^{かう}あり^{二六}さればあが趨^{すう}めあてなきがごときよあらばお
がたがうひい空^{くう}城^{じやう}うつがごときよあらば^{二七}おれれの體^{たい}城^{じやう}
うちこれ城^{じやう}服^{ふく}せむ。その布^ぬのの^ひ人^{ひと}城^{じやう}やへみづうら
棄^りられんこと城^{じやう}あそるればなり

第十章

兄弟^{きょうてい}

兄弟^{きょうてい}よわれあんぢらが^{二八}龍^{りゆう}の^りと城^{じやう}あらざる城^{じやう}この
ま^まん。それこれらのせんぞの^{二九}み^みを雲^{うん}の^のよあり皆^{みな}うみ城^{じやう}
とち^{とち}をみかくもと海^{うみ}よくバ^バテスマ^マ城^{じやう}うけう^{三〇}モーセ^{モーセ}よつけ
ま^三み^みち^ちあ^あを^をト^トく^く靈^{れい}の^のく^くひ^ひもの^{もの}城^{じやう}食^{じき}よ^四み^みち^ちあ^あを^をト^トく^くれ
いの^{いの}け^けみ^みもの^{もの}城^{じやう}の^のあ^あま^まこれ^{これ}う^うれ^れら^らよ^よあ^あぐ^ぐへ^へる^る靈^{れい}の^の磐^い石^{せき}よ
り^りけ^けみ^みご^ごる^るあり。その^{その}け^けみ^みご^ごる^るけ^けな^なの^のち^ちキ^キリ^リス^スト^トなり^五され
ど^どう^うれ^れら^らの^のう^うち^ちあ^あを^をく^くの^の神^{かみ}け^けご^ごる^るよ^よか^かな^なの^のぎ^ぎご^ごる^るが^がゆ^ゆえ
よ^よ曠^{くわう}野^やよ^よく^くあ^あら^らが^がさ^され^れり^六これ^{これ}ら^らの^のこ^この^のい^いわ^われ^れら^ら城^{じやう}
ま^まう^うれ^れら^らが^が嗜^{しゆ}よ^七ま^まう^うく^く悪^{あく}城^{じやう}ま^まう^うく^くま^まう^うら^らし^しむ^むる^るあ^あま^まら^らの^の鑒^{かん}
あり^七民^{たみ}の^のぎ^ぎま^まう^うら^らん^んま^まう^うく^く起^{おこ}ま^まう^うら^らし^しむ^むる^るさ^され^れり

びや^{十七}パンを^一なり。おちくのわれらもま^二一體なり。その
みなひとり此餅^{パン}残ともようくれべなるを^{十八}肉^ニまぞくはるイ
スラエルの人^{ひと}残みよそなんもの残くらふもの祭壇^{いざな}はあづ
かうものよあらびや^{十九}されば^二がかりんることいなまぞや
偶像^{いどう}のあるものとりへる。あつらひぐうぎうよささげ
もののあるものとりへる。あつらひ^{二十}られり^二ん異邦人^{いとうじん}
のささぐるもの^ニ神^{かみ}よささぐるよあらび^{二十一}悪鬼^{あくき}よささぐる
なり。これあんぢらかあぐまことまじらう残このま^{二十二}あん
ぢら主^{いち}のまじら^二づきと悪鬼^{あくき}のまじら^三づきと残かねのむことあ
ら^{二十四}だ。志^しの楚^しとあぐまのむ^二らう^三は兼伴^{かねばん}あ^四ら^五だ^六 ^{三十三}

れら主^{いち}のねとみ残おこさんとんる。われらあゆよりも強^{つよ}
ものあらんや^{三十三}ま^二べてのものあれよ^三うらさるなり。され
とま^四べてのもの益^{えき}あるよあらびま^五べてのものわれよ^六う
らさるなり。されと^七べてのもの徳^{とく}残と^八るよあらび^九人^に
みなおのれのをき^十ちもとむるなくおの^{十一}くひとの益^{えき}残も^{十二}
むべ^{十三}り^{十四}べて市^{いち}よ^{十五}うも^{十六}けを^{十七}良心^{らうしん}は^{十八}くめよ^{十九}ふこと^{二十}残
せ^{二十一}く^{二十二}食^{しょく}は^{二十三}べ^{二十四}り^{二十五}。その地^ちと^{二十六}れよ^{二十七}みて^{二十八}るもの^{二十九}の主^{しゅ}のも
のなれば^{三十}なり^{三十一}。あんぢらも^{三十二}不信者^{ふしんしや}よ^{三十三}ね^{三十四}られて^{三十五}ゆ^{三十六}のん
とせ^{三十七}ば^{三十八}ま^{三十九}べてなんぢらのま^{四十}よ^{四十一}おけるもの^{四十二}を良心^{らうしん}の^{四十三}あ
ま^{四十四}と^{四十五}ふ^{四十六}こと^{四十七}残^{四十八}せ^{四十九}だ^{五十}り^{五十一}て^{五十二}志^しよく^{五十三}は^{五十四}べ^{五十五}り^{五十六} ^{五十八}も^{五十九}り^{六十}人^{ひと}なんぢらよ

むらさきのりばなしあるひの預言はるときいその首を
づのしむるなり 五 まむて女をうらよものをむらび
祈ばあしあるひのよげんはるときいそのうらば辱し
むるなり。こそ薙髪といつらうくたがふことなり 六 女も
しものせむらば髪をきるべし。されどこのみば剪まこと
ることもしばんなのちづべきことならばものばあむるべ
し 七 せとて神のうらちとさうえあればそのうらよま
のば蒙べうらば。せんあはせとこの榮なり 八 そのせとて
せんたうりいでしよあらば女のせとこよりいでされば
り 九 まと男のせんあのとめよつくられしよあらば女を

とこのさめよつくられしなり 十 このゆゑよせんたの天使
のゆゑようりくうらば權もつべきものあり 十一 されと主
よありていせとことせんたよよらざるごとく女はせと
こよよらざることなり 十二 せんたの男よりいでしよとて
とこのせんたよよりて出るうら萬物みあのみよりいづ
るなり 十三 あんぢらみづうらわきまふべし 女ものばむら
ばしと神よいせのいよらしきことあるの 十四 男もよなき
髪あらばちづべきことありとあんぢら自然よしよあらば
や 十五 されと女もよなきうみのけあらばそのさのえなり
そのうむりものれわうりよのみのけばらぬひさればなり

十六 だどひあらそひ論ぶるものありともこのくのごとき例を
 おれらうもまご神のけうくまひいももあることなり。十七
 れまさられくご命とてなんぢら残布めざるのあんぢら
 の聚會えき残うけむくへつて損残まねけがなり。十八
 づなんぢら教會はあつまるるときそのらあごひはあらそ
 ひわのうくことあるときけを。われ畧らまを考んず。十九
 へご一きものゝあんぢらめらちよあらわれんごめ異端
 あそらざる残えざればなり。二十 なんぢらひとりごとろよあ
 つまるのまめの晚餐残あうくはるよあらん。二十一 食むる
 ときおのくまづおのれのさんさん残あうくはるよよ。あ

るひい飢ものありあるひハ酔あけるものあれがなり。二十三
 んぢらりんごうくはべき室たきご神のけうくわいをうろ
 んどまご乏者をまがうめんとはる。われちよ残のいそ
 んごれまようてあんぢら残稱揚べきや。われハ布めざるな
 り。二十四 なんぢらまつごご主よりきづけられご
 るなり。を考そち主りまはあごさう。夜パン残とを。二十五 祝
 るこれ残さきいひけのひとりご食せよこれハなんぢらの
 ごめよさわる。わが體なりなんぢらも如此あごなひてご
 れをあげえよ。二十六 食しごのちまご杯残とをさきごのむく
 くりひけるハこのさうづきまわが血よごごうごころ

の新約たう。なんぢらもこうおこなひて飲ぶとよわれ我憶
よ ^{二六} あんぢらこのパンを志よくーこのさうづき我のむで
とよ志ゆれ死我志めーとそめきとるるときはすべよ及なり ^{二七}
さればよろしきよわたるをばーこのパンを志よくー主の
さうづき我のむりのハーゆのこうらとと血我をうけなり ^{二八}
人みづからうへりみてのちそのパンを食ーそのさうづき
我のむべー ^{二九} 宜はこうをりばーとくひのみはるものいその
くひのみよよりてみづうら罰我すねくたう。その主のこうら
と我わきまへぎらよよる ^{三〇} このゆゑよあんぢらのうぢら
よわきものやまひのものまこねふとるものおやー ^{三一} わ

れらもーみづうら自己 ^{三二} 志ささきうあらばさつと蒙ことな
あまーならん ^{三三} されどいま罰せらうー主のわれら我こ
らーわとぬふたう。これらさらせーと世のひととゆもよさ
つ我わうむることなうらーめんとめなり ^{三四} このゆゑよわ
お兄弟よあつまりて志よくせんときとづひよあひまつべ
ー ^{三五} 志しう志なるがその家よと志よくばべー。これなんぢら
おありまり罰我うむるよいさらなんとめなり。そのお
うのこといわれらなんときこれ我定ん

第十三章

まやうごのよ靈の賜よつらういられなんぢら志
らざるよこのまん ^二 なんぢら異邦人なりーとき引誘よー

とゞひてそのしるしをさぐるがうさうのものともよさをりれゆき
いあんぢちの知とこころなり 三 このゆゑにこれいあんぢち
あめさん神のまゝに感^{かん}とくあるものい耶穌^{いすく}をたろふ
べきものとりふものなり。まゝに人^{ひと}せられいよんせざれば
いよんぢ主^{しゅ}とりふあさりげ 四 賜^{たまは}ることなれども靈^{たま}いおな
ド 五 職^{つとめ}のことなれども主^{しゅ}をおなド 六 まゝにさうらきい殊^{こと}と
も一切^{すべて}のことをいべての人^{ひと}のうちよおとあふ神^{かみ}いおなド
七 みらまは顯^{あき}をおめくよまひしを益^{えき}たえせしめんよめ
なり 八 あるひい靈^{たま}によまゝに智慧^{ちゐ}のこゝろにたえまひり。ある
ひいおなド靈^{たま}よまゝに知識^{ちしき}のこゝろをたまひ 九 あるひい

おなドみらまはよまゝに信仰^{しんじゆ}たえまひり。あるひいおなドみ
らまはよまゝに病^{やま}たえやに能^{あた}たえまひり 十 あるひい異能^{いこのちから}た
おとあひ。あるひいよげんしあるひい靈^{たま}をわきま。あるひ
い方言^{まごころ}なりひ。あるひいまごげんを譯^かはるのちうらたえ
まひり 十一 されどまべてこれらのことを行^なものいおなド
ひとの靈^{たま}あり。うれそのこゝろのまゝよおのくよ領^{わけ}與^{あづか}なり
十二 體^{からだ}もひとのまゝにわやくのえさありひとわからざの以
べてのえさいおやけれどもひとわの體^{からだ}なりキリストもまゝに
かくのぶと 十三 あまひいユダヤ人^{いひ}あるひいギリシヤびとある
ひい奴隸^{どわい}あるひい自主^{しゆ}よわ、ちちらたわれらみな一靈^{いん}よあ

りまバプテスマ受ひとつめからごとくなる。まゝみなひとり
のこゝろを城のめぐり十四をいからごとく一肢のみまあらばおや
くあれはなり十五。足も一われ手もあらざるがゆゑはからど
くは屬せぬといふがそれよりまゝ身もどくせざるの十六まゝ
みも一われ目もあらざるがゆゑは身もどくせぬといふが
それよりまゝくあらどくせざるの十七も一全身めならび
きくところのいびごとくや。も一せん一耳あらばうぐとこ
ろをいびごとくや十八。それ神をこゝろにたまふに肢城おのくか
らどくはおきくは屬す。もしみなひとりのけえどあらば身もい
づこぞや十九。肢のおろくあれどもうらぶらひひとりつなり二十。め

へ手もわれなんぢも用なりといふ城えぬまゝ頭もあしよ
りれあんぢもようなりといふ城えぬ二十一。わらぶはち充よ
わしとみやうえどく却なるべうらざるものなり二十二。うら
ぶはちちたあとおらばとおひふところろに物城まゝひきこ
れらゝとよこれ城尊られよまゝまこれら北みまくきとこ
ろいまゝまゝ美なるなま二十三。われら北うるまゝきところい
まゝろ城もあわゆるよあよはは神をこれおとれるところよ
殊またあまき城くまへま身城とまのへま二十五。られ身
はちあわゆるまゝとなくもろくの肢まゝひまあひあへま
みまゝらんまゝのなり二十六。も一肢くまゝまゝまゝのえま二十七。も

よくる一^{二七}のえごうとあつたれなむをばての股ともよ
ろくぶなり^{二七} あんぢらぬキリストのつらぶりしうまうまのおの
おのそのえぶなり^{二八} 神^ニのたゆち^一使徒^二ぶい^一二よびん
あや第三^三は教師^四そのつぎは異能^五あつたふもの次^六よやま
ひ城^七のやけちうら城^八うけしもの救済^九ゆるも此^十治理^{十一}もの方^{十二}
言^{十三}城^{十四}のふものせけうらむいよあきうゆ^{十五}元^{十六}これみな使
徒^{十七}あらんや。みな預言者^{十八}あらんや。みな教師^{十九}あらんや。みなあ
うらあるあき城^{二十}あつたふも此^{二十一}あらんや^{二十二} みる病^{二十三}城^{二十四}のやけ
能^{二十五}あつたるものあらんや。みなちうじん城^{二十六}のふものあらん
や。みな譯^{二十七}ゆるものあらんや^{二十八} なんぢらまぐれくるこまも

の城あつたふべし。もつとも善道^一城^二なんぢらよあめさん

第十三章

たとひわれ諸^一人のことばはあよび天使^二のこととを城^三か

らうともも一^四愛^五なくバ鳴銅^六や響^七鉦^八のむと一^九二^十ことひわれ

預言^{十一}ゆるの能^{十二}ありまことまべての奥義^{十三}とまべての學術^{十四}は達^{十五}

一^{十六}まう山^{十七}城^{十八}うらけちとあつたふもの信仰^{十九}あつたとらんども

も一^{二十}愛^{二十一}あつたふものあり^{二十二}三^{二十三}假令^{二十四}われは

まべての所有^{二十五}城^{二十六}布^{二十七}とこ一^{二十八}まう焚^{二十九}うらめよわうらぶ城^{三十}

あつたふものも一^{三十一}あいのあつたふもの益^{三十二}をま一^{三十三}あいのま

のぶこと城^{三十四}を一^{三十五}まう人のまきをばあつたふもの愛^{三十六}の結^{三十七}こま

ばわうらぶこのあつたふもの非禮^{三十八}城^{三十九}あつたふもの利^{四十}城^{四十一}も

とあはかるべし。くわりのらぬ人のあはれを念む。六 不義は
ゆるることばは真理はよろこび。七 知らよそこと包容おほよそ
こと信しおほよそ事のぞみ凡こと忍耐あり。八 愛といつま
づも墮ることたうし。されどよげんを廢さうぜんをやみ知識
もまことまららん。九 これらのあはれき全うらば預言もまら
うらば。十 全ものきこるとまらんまらん。十一 知らざるとまら
べし。十二 これ童子のときにかつるとまらわらば。十三 さ
らうとまらわらば。十四 知らざるとまらん。十五 童子のまら
し。十六 成人のまらん。十七 知らざるとまらん。十八 知らざるとまら
み。十九 知らざるとまらん。二十 知らざるとまらん。二十一 知らざるとまら
み。二十二 知らざるとまらん。二十三 知らざるとまらん。二十四 知らざるとまら
み。二十五 知らざるとまらん。二十六 知らざるとまらん。二十七 知らざるとまら
み。二十八 知らざるとまらん。二十九 知らざるとまらん。三十 知らざるとまら
み。三十一 知らざるとまらん。三十二 知らざるとまらん。三十三 知らざるとまら
み。三十四 知らざるとまらん。三十五 知らざるとまらん。三十六 知らざるとまら
み。三十七 知らざるとまらん。三十八 知らざるとまらん。三十九 知らざるとまら
み。四十 知らざるとまらん。四十一 知らざるとまらん。四十二 知らざるとまら
み。四十三 知らざるとまらん。四十四 知らざるとまらん。四十五 知らざるとまら
み。四十六 知らざるとまらん。四十七 知らざるとまらん。四十八 知らざるとまら
み。四十九 知らざるとまらん。五十 知らざるとまらん。五十一 知らざるとまら
み。五十二 知らざるとまらん。五十三 知らざるとまらん。五十四 知らざるとまら
み。五十五 知らざるとまらん。五十六 知らざるとまらん。五十七 知らざるとまら
み。五十八 知らざるとまらん。五十九 知らざるとまらん。六十 知らざるとまら
み。六十一 知らざるとまらん。六十二 知らざるとまらん。六十三 知らざるとまら
み。六十四 知らざるとまらん。六十五 知らざるとまらん。六十六 知らざるとまら
み。六十七 知らざるとまらん。六十八 知らざるとまらん。六十九 知らざるとまら
み。七十 知らざるとまらん。七十一 知らざるとまらん。七十二 知らざるとまら
み。七十三 知らざるとまらん。七十四 知らざるとまらん。七十五 知らざるとまら
み。七十六 知らざるとまらん。七十七 知らざるとまらん。七十八 知らざるとまら
み。七十九 知らざるとまらん。八十 知らざるとまらん。八十一 知らざるとまら
み。八十二 知らざるとまらん。八十三 知らざるとまらん。八十四 知らざるとまら
み。八十五 知らざるとまらん。八十六 知らざるとまらん。八十七 知らざるとまら
み。八十八 知らざるとまらん。八十九 知らざるとまらん。九十 知らざるとまら
み。九十一 知らざるとまらん。九十二 知らざるとまらん。九十三 知らざるとまら
み。九十四 知らざるとまらん。九十五 知らざるとまらん。九十六 知らざるとまら
み。九十七 知らざるとまらん。九十八 知らざるとまらん。九十九 知らざるとまら
み。一百 知らざるとまらん。

ハ面はあませうあひみん。われいし知識とすつさうらば。
されどそれときまはわがあらう。さうわれあらん。十三
れあらうと望とあいとこの三のものいつねよあるなり。こ
のうちもつともあひあるものハ愛なり。

第十四章

あらんからあはれ追求うらみまはれさるべし。

此は慕べし。こころよあはれべきハ預言はることなり。二 方言

をかくるものハ人よこころよあらば神よこころあり。その

靈よこころ奥義はうらむといへどもささるもはたなれを

なり。三 されど預言はるもはた人よこころよそは徳をそと勸

勉はる。安慰はあはれあるなり。四 わらばはこころよそはあ

はれの徳哉たむ。よびんはるものハ教會ケイワイのともて哉とらるな
了五 されあんぢららぐこな方言フヘン哉うたることと哉も終マツぐくと最
終マツがふとららハなんぢらら預言ヨバせんことあり。まうびん哉
うらるものハも一譯ヤク一々けうくわいは徳哉とらるよあら
ばいよびんはるものこれよりまさるなり 六 されば兄弟ケイテイと
われも一なんぢららよらるを只ただまうびん哉うらるて黙示モクシあ
るひハ知識チシキあるひハよびんあるひハ教誨ケイエイ哉うららばあ
んぢららよなるよのえきあらんや 七 それ靈レイたうらるこを哉い
づんも終あるひハ笛フエあるひハ琴コトも一その音ネわらちあゝが
吹フクとらる彈ヒキとらる哉いづぐまうびんや 八 ち一ラツバさうど

まうあきおと哉いづこまぶ誰ナニとらるひはれを多く哉あさんや
九 あく終マツとらるなんぢらら舌シ哉もくあきとらる言コト哉
いづこまぶいづこをわらるとらるのこも哉あさんや。これあんぢ
ら空氣クウキよりらるなり 十 よはなるの口音コネのこもひあや一と
いへども一とらるそは義ギあらざるあ一 十一 このゆゑよも一
われそのこゑの義ギ哉あらざればわらるものよ對タイ一とわれ
えびはとあり言コトものまもわれまたいづ夷エヒモとあるなり 十二
さればなんぢららも靈賜レイキをまうふものなるよよりけうくわ
いの徳トク哉とらるよめよそれとまもれのゆゑとららんこと
哉わらふべ一 十三 このゆゑよ方言フヘン哉うらるものハみづら

それを譯せんあまをいのる處七もーわうぜんをもくい
けらばらうの靈八さいのるあれどあつらひ人のためは果
てむらむらむ十五者からむいふよせん。われ靈九をもくいけらん
まこ心十成もていけらん。おきねいをもくうこせん。われこころ成
もて歌頌十一ん十六者うらたひなんち靈十二成もて祝十三けるときあろ
あなるものいあんぢのかうること成十四らざればあんぢの
感謝十五けるときいふよーアーソンとらせんや十七あんぢのあ
ん者やけのハ善十八されどあつらひの徳十九成とては十六われを
んぢらうりもあろく方言二十成うくるむもく神二十一はうんーやけ
教會二十二けらちよありうわれちうぜん成もて一萬二十三のこと成

あーらんよりむしろ人一成をーへんためはわがこころ成も
く五言二成あつら成よーとけ三兄弟四をち急よおりてハ嬰兒五
とあるあつれ惡六はおりてハ七あつら成ことあれ智慧八はおりて
ハ成人九成なるべー二あきてはあつら主十りひうあろく異
こととあつらあるくちびる成もてこの民十一はうさらんあつれ
どもあつれらわれはきさつとあり三このゆゑは方言十二ハ
んげものためはあつら信十三せざるもけ、うめの徴十四なり
されど預言十五ハーんせざるもけ、うめはあつら志十六んぢるも
のうめあり三もー全會十七ひとところはあつらるときみな
ううぜん成もくあつら愚者十八なるひハーんぢるものい

諸^{しよ}々^々くわいのごとくなんぢらの婦女^{やんむ}もさうくわいの
のうち^{うち}は黙^{もく}さむべし。われらのうらむるをゆるさばん。われらの律^{りつ}
法^{ぽう}もいへるごとくしつふべきまはたろう^{三五}。もしまあづん
とびるところあらば室^{むろ}よあをてその夫^{むらこ}よとあべし。そのを
んを教會^{かうかい}よあらうとあむるいさづべきことあまきざあり^{三六}
神^{かみ}はちとばうなんぢらとあむいせしやまきさあんならよのみ
まうらうしや^{三七}人もしむづうらを預^よ言^{げん}者^{しや}とあむひのみた
まよあんなづしものせむ我^{わが}をんならよのまあくること
主^{しゆ}の命^{めい}たうるとあむるべし^{三八}。もしあらむるものあらをその
らむるよまうらべし^{三九}。されば兄弟^{あにがと}とよづんはむること我^{わが}志^し

とひまうと方言^{かふげん}はうること我^{わが}禁^{きん}むるなうれ^{四〇}。まづてのこ
と端正^{たうせい}の次序^{ついで}よあたうひとあてあふべし

第十五章

きやうごのよ前^{まへ}よわがあんならよはくし^{四一}。福音^{くふん}
をいさうたあんならよ告^つをなんならうらうとあむるま
れまうらと立^たしとあむるあり^{四二}。なんぢらもし我^{わが}つとへしと
と我^{わが}のこく守^{まも}りしづらよ信^{しん}むることなくあむ我^{わが}よよりや
はくまれん^{四三}。もしあんならよつとへしとわが受^うしとあむ
はくまらうとあむその第一^{だいいち}まはなれち聖^{せい}書^{しょ}よあひてキリスト
われらのつみのつとめよ死^し^{四四}。まことせいあまよはのあひくさう
むらま第三^{だうさん}日^{にち}よあむいし^{四五}。ケパよあらわれはち十二^{じふに}の

門徒^ドはあつりれしむ^ハことあり^六このくあらされしむ^ハ
るのち五百のきやうど^ハのともよあるときしむ^ハこれよあ
らりれしむ^ハその兄弟^ハうちあつり^ハ今^ハあな世^ハ何^ハ
されども^ハきでよ寝^ハるものもあり^七あな^ハのちヤコブ^ハよあ
らはれしむ^ハすべての使徒^ハはあらされ^ハい^ハやとよ月^ハら
ぬ^ハの^ハとらきわれしむ^ハあらされ^ハた^ハし^ハ九^ハそのわれ神^ハ
の^ハくわい^ハを^ハや^ハも^ハせ^ハし^ハゆ^ハ急^ハは^ハ使徒^ハと^ハ坐^ハあ^ハる^ハよ^ハら^ハざ
るものよ^ハし^ハと^ハま^ハの^ハうち^ハは^ハ至^ハ微^ハもの^ハな^ハれ^ハば^ハあり^ハ十^ハされど
わ^ハか^ハく^ハの^ハと^ハく^ハな^ハる^ハを^ハえ^ハし^ハの^ハ神^ハは^ハを^ハみ^ハよ^ハく^ハあり^ハ
われしむ^ハひ^ハの^ハみ^ハは^ハ思^ハひ^ハむ^ハな^ハし^ハら^ハん^ハわれ^ハの^ハを^ハあ^ハる^ハの^ハ使徒^ハ

よりもおやく^ハ勞^ハと^ハり^ハこ^ハら^ハわれ^ハよ^ハあら^ハば^ハわれ^ハと^ハとも^ハよ^ハある^ハ
神^ハの^ハめ^ハぐ^ハみ^ハあり^ハ十一^ハこの^ハ故^ハよ^ハこれ^ハも^ハわれ^ハら^ハも^ハあ^ハく^ハの^ハあ^ハと^ハく^ハ
の^ハべ^ハつ^ハへ^ハた^ハん^ハぢ^ハら^ハも^ハま^ハこ^ハの^ハく^ハの^ハで^ハく^ハ信^ハぜ^ハり^ハ〇^ハ十二^ハキリ
スト^ハの^ハ死^ハを^ハり^ハよ^ハみ^ハぐ^ハへ^ハし^ハと^ハせ^ハべ^ハつ^ハと^ハある^ハよ^ハた^ハん^ハぢ^ハら^ハの^ハ
う^ハち^ハ死^ハを^ハり^ハよ^ハみ^ハぐ^ハへ^ハる^ハこと^ハな^ハし^ハと^ハら^ハふ^ハもの^ハある^ハい^ハた^ハん^ハぢ^ハ
や^ハ十三^ハも^ハ一^ハ死^ハを^ハり^ハよ^ハみ^ハぐ^ハへ^ハる^ハこと^ハな^ハく^ハバ^ハキ^ハリ^ハス^ハト^ハも^ハま^ハこ^ハよ^ハ
み^ハぐ^ハへ^ハら^ハざ^ハり^ハし^ハあら^ハん^ハ十四^ハキ^ハリ^ハス^ハト^ハも^ハ一^ハよ^ハみ^ハぐ^ハへ^ハら^ハざ^ハり^ハし^ハた
ら^ハば^ハわれ^ハら^ハの^ハ宣^ハと^ハこ^ハろ^ハむ^ハあ^ハし^ハく^ハま^ハこ^ハあ^ハん^ハぢ^ハら^ハの^ハあ^ハん^ハの^ハう^ハ
も^ハ徒^ハ然^ハう^ハら^ハん^ハ十五^ハう^ハつ^ハれ^ハら^ハ神^ハの^ハめ^ハぐ^ハよ^ハま^ハ證^ハは^ハる^ハも^ハ比^ハと
なら^ハん^ハわれ^ハら^ハ神^ハの^ハキ^ハリ^ハス^ハト^ハ城^ハよ^ハみ^ハぐ^ハへ^ハら^ハせ^ハし^ハと^ハあ^ハの^ハし^ハれ

あらざることを祈きらわなむ 二八 萬物うれよ者こがふ世をさと
子もまこみづうらけづてのもは我あのは 一 服せしもは
者あづあべしこれ神まべて我のうらけし主 一 さらんよめ
あり 二九 もし死しものまつくよみづうらげばあたしもの
は 三〇 ぬよバプテスマ城うらくなよめよせんといはるるれ
ら者よしものれ為よバプテスマ城うらくる者なよゆ急ぞや 三一
と何のよめよわねらつねよ危険よとるや 三二 われらの主キ
リスト 耶穌はありやなんぢらよつき我もてるよろこび哉と
し誓くわれ日々よ者ぬるといふ 三三 もしわれ人のごとくエ
ペリよあらく獸とせよよとが 三四 かしあらばあたにの益あらん

や。もし者よしものよみかへらばい飲食はるよしわだ。われ
ら明日者ぬべきものあれはあり 三三 あんぢららづうら欺 三四 な
れあしきまト 三五 善行はそとなふあり 三六 なんぢら醒て
とてしき我あそをふべし。つみ我をうけあうれ。なんぢら此
ら神 三六 ぢららざるものあり我 三七 あくいひる坐けん。者しもの如何よみ
かしむるあり 三八 人あひる坐けん。者しもの如何よみ
がくるやりのあるわらごよききこるやと 三九 おろのあるも
は 四〇 なんぢら播ところのものまづ死ざればりき 四一 ば
なんぢがまくところのもの將來 四二 ちゆるところの體 四三 ぢまく
よあらば 四四 麥 四五 てもわりの穀 四六 ても 四七 粒 四八 ば 四九 三 五〇 八 五一 者 五二 あり

を神カミのおおせれのこころよまろくがひそなられよわくちぢあ
 とく種タネごとよそのおほくの體クニ我あへつるふ三九まぐての
 肉ニクあなぞよくよあらば人ヒトのにくあり獸ケモノはよくあり鳥トリのよ
 くあり魚イサのよくあり四一天よつらるもはの形體クニあり地チよつ
 らるもはのうへつらるもつらるもの榮サカユのちよつら
 るものつらるえよ異ヒトあり四二日のさくえあり月のさくえあ
 り星ホシはさくえあり此ココ布フよこのほくとおれさかえまことお
 しく四三死シしひとはよみぐるもまろくかくのごと
 し朽壞クヱものつらるまろくちぎるものは復生ユミガエらせられ四三
 うとつらるるもはよくまろく榮サカユあるものよよまがへらせ

られよわきものよて種タネれつらるものよまろくならせら
 れ四四血氣タウキのうらごとよまろく靈レイのうらごとよまろくなら
 せらるるなり。けつきの體クニありれいのうらごとあり四五ある
 しと始ハジメはひとアダムにけつきのものおとあり終オハシのアダムに
 のちぢあへつらる靈レイとあるとあるとあり四六靈レイのよはを
 さきよあらばよくまろく血氣タウキのものさきよありまろくねい
 のものおちよ在アツあり四七第一ダイイチのひとの地チよういごとつちよ
 つき第二ダイニのひとの天テンよりいでる主ウシあり四八このつちよ
 屬ツクもめよはてて土ツチよつらるもの似ニなるま。このめてんよ
 つらるものよはてて天テンよつらるもはよはるなを四九われら

新約全書 哥林多前書 第五章 自四至五節 四一

土よつらるも此の状哉もつ。よく此ごとく此ちまると天よつ
らるも此の如くちまもたん 兄弟をわれち被せりそん肉
と血へのみのくに哉つとことあとの儀。まゝ朽壞ものい
ちぎるもの哉嗣とあとの儀 視よわれなんぢらよ奥義
哉つだん。あおらちもぐく移ふるもるあらび。おれらみる未
造ラツバの响んとききたちまちまたくひまよ化せん。そハラ
ツバならんとき死しひとよみぢらアそくち儀。おれらもま
よ化せられればなり 此くつるもの也。ツをらびくちぎる
も此を著せぬるもの也。このならん者たぶらるものなきるべし
五五 このくつるものくちぎるも此疾き此著ぬるもの也。なご

るも此をきんとき聖書よ著るし死の勝よのまねんとあ
るよこのなごべし 死をなんぢの刺ちりづくよある陰府
よなんぢの勝へのげくよ何や 死のち聖へのつみなり罪
能あるらへおきてなり されらせしおが主の正にキ
ストよよりてあち疾えせしむる神よ著や 此のゆゑよ
わが愛するまきやうごいをなんぢら貞固しこうごんつね
よまげみそ主のおさ哉つとめと。その主よあをまなんぢら
がなるんところ此勞のむなしうらぎるを疾者疾がなり

第十六章 聖徒はくめよ金をいぢらふことよつゆのガラテヤの
けくわいよわが命せしむるをなんぢらもあこなふべし

二 一週ひとしゅう

の利りよきとてひくく我われを家いえにたくしむへあけ。これわがいの
るとききとめく捐いげことならん。あなより三 われりさらば書かき
我われあんぢらへえらぶところの人ひとにゆさへなんぢらの恵あま我
エルサレムエルサレムにたづさへむべし四 もしわれも往かへべくはこれら
われとゆもにゆくべし五 我われマケドニヤマケドニヤ我われ中ちゆうほらんといふまじ
マケドニヤ我われとゆるとき爾なんぢ儕せいといふは六 あんぢらとともよと
どまらん。あつひをあんぢらと冬ふゆ我われにむかふことあるべし。あ
くくなんぢらに我われをむかふことありは送かへんこと我われをむ
七、 いま途みち間まあんぢら我われみんこと我われをむかふ主しゅにわれよ

許ゆるばまばらうあんぢらともよまむらん。こと我われ望のぞみハこれペン
テコステマテコステマとエペエペよらん九 その廣ひろあらうらき我われをむか
門かどひらきそとまはらん。よあつ。ま。敵たてものおやられはなる。○
十、 二モテもーのころばあんぢら慎つとむられとあつ。ま。い
ところなくなんぢらのうちよ居ゐる。よ。そのうれもわがで
とく主しゅのつとをばはる。ものなればあり十一 このゆゑよ
なんぢらうれ我われをむかふとあく平安へいあんよあつ。ま。わかもよ
きたらしめよ我われをむかふ兄弟きょうだいとちと中ちゆうもよきこと我
まむ。ば。なる。ま。き。や。ら。う。ご。い。ア。ホ。ロ。の。つ。り。く。の。兄あに弟にいたちととも
よ。の。ま。か。な。ん。ぢ。ら。よ。い。ご。らん。こ。と。も。む。か。れ。大おほま。な。む。れ。と

新約全書 新約全書 卷第十 自八至八節

われ更^{また}よりのまゆくこと我^{われ}は^{われ}の^{われ}便時^{よきとき}あらざり
べし^{十三} なんぢら^{なんぢら} 微醒^{ささめ}あ^ある^る 志^{こころ}ん^んう^うう^うよ^よち^ちち^ち丈夫^{たくましく}のごと
くつ^つま^まの^のれ^れ ^{十四} なんぢら^{なんぢら} の^の お^おこ^こな^なふ^ふと^とこ^ころ^ろみ^みな^な愛^{あい}せ^せも^もお
こ^こな^なふ^ふべし^{十五} 兄弟^{あなただち}を^をステ^{ステ}パ^パナ^ナの^の 家^{いえ}い^いは^はな^ない^いち^ちアカ^{アカ}ヤ^ヤの^の ち^ちど^ど
ゆ^ゆは^は果^みあり^{あり}ま^まさ^さう^うれ^れら^らが^がせ^せい^いと^との^の こと^{こと}は^は身^み我^{われ}ゆ^ゆづ^づね^ねつ
う^うあ^ある^るを^をあ^あん^んぢ^ぢら^らが^があ^ある^ると^とこ^ころ^ろな^なり^{十六} され^{され}勧^{すすむ}なん^{なん}ぢ^ぢら^らも
あ^あく^くせ^せご^ごと^とき^きも^もの^の お^およ^よび^びを^をれ^れと^とや^やも^もよ^よ勞^{つとむ}る^るも^もは^は服^やせ^せを
^{十七} わ^われ^れステ^{ステ}パ^パナ^ナと^とポ^ポル^ルト^トナ^ナと^とア^アカ^カイ^イコ^コの^の き^きこ^こる^る 我^{われ}よ^よろ^ろこ^こぶ^ぶ。これ
なん^{なん}ぢ^ぢら^らは^は決^{かぎ}と^とこ^ころ^ろ我^{われ}お^おぎ^ぎな^なへ^へぶ^ぶあり^{十八} され^{され}ら^らわ^わが^が心^{こころ}と
なん^{なん}ぢ^ぢら^らの^の ところ^{ところ} 我^{われ}な^なぐ^ぐさ^さめ^めさ^さう^う。この^{この} ゆ^ゆゑ^ゑは^はなん^{なん}ぢ^ぢら^らお^おく^くの

ご^ごと^とき^きも^も我^{われ}お^おも^もん^んじ^じべ^べし^{十九} ア^アジ^ジヤ^ヤの^の 諸^{しよ}教^{きやう}會^{かい}なん^{なん}ぢ^ぢら^らよ^よや
は^はき^き我^{われ}問^とア^アク^クラ^ラと^とプ^プリ^リス^スキ^キラ^ラ お^およ^よび^びそ^その^の 家^{いえ}の^の ち^ちう^うく^くわ^わい^い主^{しゅ}
は^はあ^あう^うく^くなん^{なん}ぢ^ぢら^らは^はね^ねん^んと^とろ^ろよ^よ安^{やす}ん^んと^とふ^ふ ^{二十} きて^{きて}て^ての^の 兄^{あにいもうと}弟^{あにむすこ}
なん^{なん}ぢ^ぢら^らよ^よや^やは^はき^きを^をと^とあ^あん^んぢ^ぢら^らき^きよ^よき^き接^{くち}吻^{つひ}我^{われ}も^もて^てこ^この^の
ひ^ひよ^よや^やは^はき^き我^{われ}と^と ^{二十一} 我^{われ}バ^バウ^ウロ^ロて^てづ^づか^から^らあ^あん^んぢ^ぢら^らよ^よや^やは^はき^き
我^{われ}ち^ちよ^よ ^{二十二} 主^{しゅ}い^いと^と主^{しゅ}い^いと^とキ^キリ^リス^スト^ト 我^{われ}あ^あい^いせ^せが^がれ^れば^ばお^おら
あ^ある^るべ^べし^{二十三} 主^{しゅ}い^いと^と主^{しゅ}い^いと^とキ^キリ^リス^スト^ト 乃^ゆ恩^{おん}を
ん^んぢ^ぢら^らと^とも^もよ^よあ^あれ^れ ^{二十四} づ^づが^が愛^{あい}を^をべ^べて^て耶^{イエ}穌^スも^もと^とる^るあ^あん^んぢ^ぢら
と^とも^もよ^よあ^ある^る 榮^栄り^りア^アー^ーメ^メン

四田

1431

95-91186

